

もてなしとは、客に注意を向ける能力のこと

阿部美咲 作業療法士

この度は、とても考えさせられる大事なご講義をありがとうございました。

「もてなしとは、客に注意を向ける能力のことである」

この言葉に感銘を受けました。「おもてなし＝相手に気持ちよく過ごして頂く為のサービスや接待・心配り」だと思っていました。もちろんそれも言葉の意味として間違っていないです。しかし、大前提となるものが、ナウエン牧師のおっしゃった事、自分から相手へフォーカスを向ける事なんだなと気付きました。

また、「自分の想像で判断しない」「先回りしないで相手に尋ねる。相手に選択肢を」そして何より「私”も”の危険性」これらの言葉が深く深く刺さりました。まるで私個人に言われている様でした。人と話している時、自分の発言に対し相手からはこんなニュアンスの返しがくるだろうな。だから次はこんな事を言おう といった事を考えてしまいます。これも一種の「自分の想像による判断」だと思います。要するに、自分の思考を優先し相手の話に注意を向け切れていないのでしょう。そして「私”も”！！」これは口癖の様に常習化している気がしてなりません。悪気はないのです。あくまで共感・同調の意味合いとして使用しているのですが、それはこちらがその”つもり”になっているだけで、相手は不快感を抱いている事もある。少なくともその場では会話泥棒になってしまいます。患者様と話していても、関係性が築けてきた方であればあるほど、つい気軽に話してしまい勝手な同調をし、いつの間にか会話の主導権を握ってしまっている事があります。深く反省。

先生のご講義を拝聴し、繰り返しになりますが「もてなし」が不十分だったなと大変勉強になりました。口は1つで耳は2つ。相手の話をよく聞き、口にする言葉をよく選び、会話の作法に繋がっていきたいと思います。ありがとうございました。